

## 第 34 回（就労支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 28 年 12 月 16 日（金） 13：00～15：00

2. 開催場所：立花市民センター201 会議室

3. 参加者（所属のみ）

デュナミス、八女作業所、筑後特別支援学校、ハローワーク、南筑後保健福祉事務所、筑水会、ゆうゆう、さんふらわあ、八女あかり、わーよか、のぞえ風と虹、蓮の実団地、陽だまり工房、ひまわり、ミライプラス、赤坂園、飛形学園、城山学園、夢と希望、八女てらす、プラムの小径、年輪の園、八女市、リーベル

4. 実施内容

○座長より

障害者の雇用率は全国で 1.92%（47 万人）H30～法定雇用率の算定に精神障害者も加わるので、大きく障害者の雇用率が上がるだろう。ヨーロッパは 3～4%。数字だけ見ると日本は遅れている。

○精神障害者の事例検討

○事例『事業所での様子や取り組みについて』 ル・パン T 氏

①T 氏について

双極性障害、35 歳、男性。デイケアの就労プログラムから A 型事業所への利用となる。当初は障害者として見られたくないという気持ちが強かったが、A 型事業所を利用する中で少しずつ現状を受け入れることができるようになり、拒否していた手帳、年金も申請するまでに至った。事業所では定期的なカウンセリングを実施し、関係機関との情報共有は密に行っている。



○グループワーク

⇒各グループで協議（全 5 グループ）

①障害者就業・生活支援センターの登録のタイミングについて

A：しばらく様子を見て、本人の了承を得て行う。

B：ナカポツの役割を本人に理解して頂く。  
A 型事業所との信頼関係を築いたらすぐに。

C：本人の意思確認をしたうえで、希望があればすぐに登録をしても良いのでは。



D：体調面と本人の意思優先。関係機関と話し合いを行って決める。(本人、保護者、相談事業所、事業所、デイケア)たとえ本人が希望しても体調面で難しければ本人と面談。利用開始当初や退院して間もない方の希望が多いが立ち止まって話し合いを行う。



E：本人の情緒安定のため、登録してもよいのでは。(就職に近づいているという実感)

### ②一般就労を希望する精神障害者のA型事業所としての役割について

A：長期目標では飽きてしまう。細かい目標が大切。短期→中期→長期で目標。プラン通りにならないA型同士の情報交換・勉強会を行う。その人の能力、生きがい、ほめる場所を作る事が大切。余暇時間(土日)の過ごし方の支援が大切。

B：利用者本人へ日々就労への意欲づけをしながら出来ないことは周りと連携。

C：行政、家族、医療、事業所との連携が必要。特別支援学校のセミナーへの参加。

D：就職できても継続が大切という話をしている。送り出す時は“帰ってくる場所はあるから”と伝えて送り出している。

E：本人の様子観察を、1年を通して行い、次年度の支援の方法を考える。躁状態の時の対応を受け入れられる時に伝え、考える。

### ③一般就労を促進するための関係機関とよりよい連携の在り方について

A：細かい連絡、顔の見える関係、お互いの施設を見る。

B：情報の共有、担当者会議の開催。

D：同行や話を聞く余裕がないため、デュナミス、相談支援事業所、移行支援につなげるくらいしかできないので関係機関との連携は不可欠。最低賃金を払うた



めにはなかなかそれ以外の支援の時間がとれない。作業に追われている現状がある。

B型からA型につなげるときはスムーズだが、企業につなげるのは難しい。

E：医療機関とも連携を図る。